

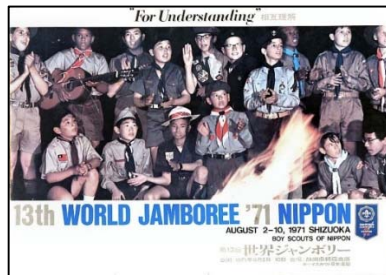


BOOMERANG

ボーイスカウト川崎地区賛助会は1984年に川崎地区協議会の財政支援を目的として、川崎地区の有志により設立されました。この会報「ブーメラン」は当会の歴史と活動内容を広く皆様へご紹介する目的で発行しているものです。また、賛助会の運営趣旨にご賛同いただける方へのご入会促進メッセージでもあります。この機会に是非ご入会を検討いただければ幸いです。

【特集】

友情の祭典 スカウトジャンボリー



ボーイスカウトの祭典といえば4年ごとに開催される「ジャンボリー」ですね。昨年は石川県で第17回日本スカウトジャンボリーが開催され、川崎からも多くのスカウトが参加しました。また、日本で最初に開催された世界スカウトジャンボリーは1971年の第13回、再び2015年には第23回世界スカウトジャンボリーが開催されました。この時はボルチモアの派遣隊が川崎の派遣隊と現地で再会し友情を深めるという計画が成功しました。

今回の特集では、賛助会の大きな支援事業の一つである日本ジャンボリーと世界ジャンボリーに焦点を当てました。

■第17回 日本スカウトジャンボリーの思い出

◆ 神奈川第1隊 隊長 保坂 陽太 (川崎39団)

ジャンボリーに参加をしたスカウト達は、かけがえのない経験が出来たと思う。一緒に生活することになったインドネシアのスカウトたちとは上手く言葉が通じない中で工夫してコミュニケーションを取っていくスカウト達の柔軟性を見て凄いと驚かされた



りもした。

隊のプログラムとしてスカウト達が班毎に企画・準備をした交歓プログラムで

は、現地で出会った他の隊とスカウトたち自身が交渉をして、北海道1隊、神奈川17隊、愛知25隊にプログラムに参加してもらった。初めて会った人達が自分で用意したプログラムに参加して、楽しい時間を共有できた事は今後のスカウト活動にも活か



してける良い思い出になったのではないかと思います。

◆ 神奈川第2隊 隊長 黒田 信 (川崎54団)

長女がビーバー隊に入隊して私もこの活動にリーダーとして関わって13年くらいになります。その間に何回かジャンボリーが開催されました。私自身は朝霧のジャンボリーにビーバースカウトを連れて見学に行った時にいつかは参加してみたいと思っていましたが、今回の石川での17NSJに参加する事となりました。



17th NIPPON SCOUT JAMBOREE 「世界一絶好のデカカラ未来へ〜」
2018年8月4日〜10日 石川県珠洲市 いろはのしずみ 跡ヶ崎

リーダーとしての参加が蓋を開けてみると神奈川2隊(54団と49団の派遣隊)の隊長を仰せつかる事となっていました

た、スカウト経験も無い、初ジャンボリーで初隊長という初めてだらけのジャンボリー参加となりました。そんな私を支えてくれたのが優秀な副長達と元気いっぱいスカウト達で、事前隊集会、訓練キャンプを経てスカウト同士のコミュニケーションは深まりました。



大会を振り返ると「スカウトは楽しんで参加できたのか?」と思います。何年か経って同窓会でも行って成長したスカウトに会ってみたいです。

◆ 神奈川第3隊 隊長 鈴木 秀和 (川崎43団)

17NSJは、従来の大会から大きく方針転換した点が2つあった。1点目は自団の隊のままで参加が可能になったこと、2点目は班毎にスカウトスキル日本一を競い合う「ジャンボリー日本一ゲーム」が導入されたことである。自隊のままで17NSJ参加についてここで振り返ってみたい。従来のジャンボリーは地区のスカウトと派遣隊を編成し、新たな友情を育む場でもあったが、17NSJでは自隊の班の力を日本中のスカウトの中で試し、パトロールシステムを機能させていく面で大きな効果があった。特に「日本一ゲーム」へのモチベーションは高く、スカウト達の感想ではこのゲームを通して班の団結力が高まった、班の改善点が見つかったとの声が多く聞かれた。自隊では夏キャンプを班のチームワーク、スカウトスキルの一年の総仕上げの場としてプログラムを策定しており、この参加方式はジャンボリーの開催さ

れる年でも自隊のパトロールシステムのままスカウトが成長出来る機会となり、また、スカウト達の次回のジャンボリーへの参加意欲が高まった点でも評価したい。

神奈川第3隊の日本一になった班、日本一を目指して協力し友情を深めた班にとって思い出深い経験となった。



◆ 神奈川第1隊 副長 高橋 夏樹 (賛助会理事、川崎57団)

多くのスカウトが、保護者のご理解と関係機関各位のご尽力により、一生の思い出となるジャンボリーに参加でき、他では得られない経験を得たことと思います。全国各地のスカウトと友情を深めたこと。また他国スカウトと共同生活を送ったこと、特に文化の異なるイスラム教徒との一週間の共同野営生活は、



真のダイバーシティを経験した貴重な機会となり、本当に仲良くなれました。多くの機会を与えられたこと、皆さんの貴重な経験ができたことに感謝しています。



■ 第24回 世界スカウトジャンボリー 川崎地区委員長 境 紳隆



第24回世界スカウトジャンボリーが、2019年7月22日から8月2日までの11泊12日(日本派遣隊は全16日間の行程)、米国ウエストバージニア州にあるアメリカ連盟のサミット・ベクテル・リザーブ(常設の野外活動センター)において、米国・カナダ・メキシコの3か国共同主催により開催されます。日本からは派遣隊28個隊、IST及び派遣団本部員等合計1,231名(11月末現在)が参加予定となっています。川崎地区からは、スカウト5名、IST1名、指導者2

名の計8名が参加を予定しています。私は来年定年を迎えるので、丁度良い機会と思い、退職して指導者として参加することに致しました。



米国連盟にはフィルムント等4つの常設施設があり、このサミット・ベクテル・リザーブは2011年に開業した最も新しい施設だそうです。ボルチモア地区のブロードクリークキャンプ場を更に何倍も大きくした

施設で、広さはざっと山手線の内側全域程とのこと。そこに世界中から約4万人が集まります。会場はスカウト訓練用の施設ですから、キャンプ施設は充実しており、また、数々の本格的なアクティビティがプログラムに盛り込まれるようです。

そうしたプログラムも勿論楽しみですが、日本の各地から集まるスカウトと、また、世界中から集まるスカウトと交流を深めることができたならば、スカウト達にとって一生の宝物になるに違いありません。

■賛助事業報告

■第27回ボルチモア

一川崎交流派遣を終えて

国際委員長 西角 恵輔

第27回ボルチモア一川崎ボーイスカウト交流派遣は、米国ボルチモアから11名のスカウトと5名の指導者を迎え、川崎側は初めてボーイスカウトとガールスカウトの混成隊（ファニーベアキャンプ隊）を組んで、様々な交流を行いました。ウエルカムパーティー、恒例の富士登山、八ヶ岳少年自然の家でのキャンプ、先輩でもある福田市長への表敬訪問、川崎大師参詣、浅草観光、鎌倉ハイク、居合道体験、



ホームステイした家庭とのホストファミリーデー、さよならパーティーなど、大変忙しく有意義な2週間を過ごしました。日米、ボーイスカウトとガールスカウトの違いがありますが、同じスカウティングの理念の基、プログラムに関わったスカウト、指導者、保護者そしてボランティアスタッフの全員が、心からの交流を実現できたと考えます。

ホームステイした家庭とのホストファミリーデー、さよならパーティー

賛助会の皆様を含め関わっていただいた全ての方にお礼を申し上げます。

また、健康管理の面では聖マリアンナ医科大学の全面的なバックアップをいただき、起きた問題にも迅速かつ的確に対処することができました。

今後は受け入れの反省点の基に、川崎市における青少年の国際交流を発展させるドライバーとして、またスカウト人口の減少を食い止めるボーイスカウト主催の価値あるプログラムとして、この交流を発展すべくその基盤を盤石にし、交流を拡大してゆきたいと考えます。

ボーイスカウトの目的は「良き社会人を作る」ことであるとすれば、このプログラムの目的は「良き国際人を作る」ことに他ならないからです。その上で皆様のご協力は欠くことはできません。何卒ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



【特別寄稿】

年寄りのひとり言

賛助会理事 中原 亨

ボーイスカウトに関わり32年を振り返り、昨今、懐かしい思いがし、ひとり言を書いてみました。

息子の入団面接について行き「活動日は必ず親御さんが同伴する様に」と言われ、それまでの休日は昼まで寝ていた男が朝決められた時間に起床し活動現地に向かい一緒に訓練・活動を2年間続け規則正しい生活を送る男になり、当時のリーダーより指導者としての奉仕要請を受けて種々の講習・訓練・教育を体験、指導者として30年間の経験を積み重ねて来ました。

自団での指導者活動も多々ありますが、特に脳裏に残る二つの体験として日本ジャンボリー（妙高高原）に大山隊の副長として奉仕した時の経験、5泊6日全てを炊事担当として41名分の食事準備・調理・片づけと朝寝袋から出ると夜入るまでそして朝スカウトに食事させプログラムに参加させて後片づけ、終わると昼食の準備、終わると夕食の準備と



朝から夜までキッチンテントの中で動き廻った炊事体験があり、おかげで今は自分で食事の支度が出来る調理力が身についています。

そして2004年のボルチモアスカウト来日交流活動で現在地区協議会長の小山さん率いる小山隊の副長として奉仕、八ヶ岳キャンプにて米国のリーダーそしてスカウト達との交流・接し方に苦慮。

朝礼時の司会進行役を担当するも英会話に自信がなく電子辞書を離さず夜テントの中で毎晩明朝の喋りに何を話すか片言の英文を作成し話したこと、ボルチモアリーダーからの指導そして「昨日より良かったよ」の誉め言葉、スカウト達との交流は常に電子辞書片手に、フリータイム時は自身がバカになり身振り手振りで笑わせ和むよう様に踊ったり、歌ったりで楽しんだおかげでスカウトたちからお別れまで、いい意味で「ヘーイ・クレイジーボーイ」で呼ばれるように親近感を持たれるようになった事。



当初スカウティングは大変だ、苦勞する、何故自分がと感じていたが結果として楽しい思い出、体験が残る満足している。そこでひとり言・・・現指導者の皆さんイベントに自ら挑戦し体験してみてください、きっと良い思い出として残せますよ！

弥栄

【シリーズ】

■賛助会のあゆみ（第4回）

賛助会 副会長 近江 廣之

賛助会は前回に記しましたように、地区協議会との共同の行事を図っておりますが、会が出来てから今日まで続けられておりますのが、毎年1月に地区協議会が開催しておりますニューイヤーパーティーです。賛助会はこの会の一時間半を使わせていただき、参加の方々の提供品をオークションにかけ賛助会の資金への協力をお願いしています。



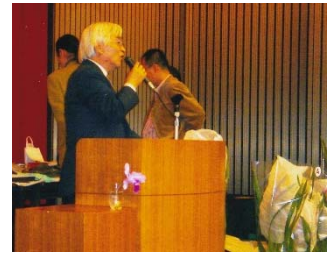
その収益を平均して

みますと、1988年に13万8千円、1999～2002年に20万2千円、2003～2016年は

15万4千円と30年間の間のばらつきは提供品の内容、数量、参加の人員の変動などを加味して考えてみますと、思ったより小さな変動であると思います。

オークションの始まりでは、販売できないような商品あり、また高価なものあり、にぎやかで楽しいものあり、楽しみにして参加していただける方も。

提供品は時代と共に少しずつ変化していき、例えば米田先生の絵画（画人としての価格リストに入っている）は、額入り3万5千円で毎年一枚提供していただきました。また、理事の中原さんからは鉢植えのシンビジウム、チューリップ、シクラメンなど毎年20鉢程の提供をいただきました。一時休みがありましたが、参加の方々より希望が多く近年再度中原さんに協力をお願いしております。



また、1986年頃はアルコール類の提供が多く、ジョニ黒・赤、ダルマ、清酒は「越乃寒梅」も長年

提供されていましたが、近年は大吟醸や焼酎、ワインなども増え時代によって変わってきました。このように毎年同様の提供していただけるの方々、このパーティーに参加して買っていただける協力者の方々が実績を出していただいております。販売は理事の方々に分担しておりますが、近年は現役の隊長や団委員の若手にも販売をお願いしております。賛助会としてはこのパーティーに今後も続けて参加をしていきたいと考えています。

■賛助会員の分布（2018年12月現在）

- ・準会員：11名
- ・個人会員：95名
- ・団体会員：24団体（内10法人含む）

■会員募集

賛助会は随時会員を募集しております。青少年育成にご理解とご支援をいただける方の参加を歓迎いたします。

■お問い合わせ：賛助会事務局：鈴木

E-mail：sanjokai@scout-kawasaki.org

ホームページ：

<http://www.scout-kawasaki.org/sanjokai/index.html>

入会申込書はホームページからダウンロードできます。お気軽にお問い合わせください。

●編集後記

スカウトの祭典であるジャンボリーには筆者も大きな思い出がある。初めて参加した第4回日本ジャンボリー、朝霧高原での第5回日本ジャンボリー、そして翌年の第13回世界ジャンボリー、いずれも外国スカウトとの交流は人生に大きな影響があった。何よりも代えがたいのはその時の仲間が今でも盟友であることだ(H)